

チームでくる

# 元気な医院

④



デンタルタイアップ  
代表

小原 啓子

私とその院長に出会ったのは、歯科医院を売却して勤務医として生きる道もあるのではないかと悩み、ディーラーに相談をされている時でした。

院長は2年前、1人で診療している時がありました。スタッフの方々とどうしても上手くいかず、雇っては辞められるの繰り返し。自分は経営者に向いていないと思い悩んでいた時に、駅と

自院の間にもう一軒、わずか50坪しか離れていない場所に歯科医院がオープンすると聞き、危機意識を持ったのでした。「もう一度、歯科医院作りを一からやり直したい」。その言葉は院長の深い悩みが伝わる本気のひとつでした。院長は孤独で、本気で相談できる人を切望していました。

私は歯科医院にお邪魔し、患者目線

中を拝見させていただきました。「5S」が徹底されていて清潔感に溢れ、特にこれという問題はないと思われました。しかし、スタッフルームを拝見し、ここが

## 狭いスタッフルーム

元凶だと感じました。

4畳に満たない北側の、小さな明かり

窓がついただけの空間です。ここに洗濯機、冷蔵庫、ロッカー、在庫品、流し台があり、中央に小さな卓袱台が置かれてい

きました。

ここで昼食をとった後、みんな

が横になるといいます。足を伸ばせる広さはなく、新人にとっては違和感を覚え、入っていくことのできない空間で

す。

「先生、ネアスミでも狭い空間に押し込めれば喧嘩します。彼女らにゆったりとした空間を与えることができますか」

院長は今までのことを思い返し、「分かりました。今まで気付きませんでした。今、思い当たる点があります」と答え、即刻、ユニットを入れるために取っ払い、空を開放し、スタッフルームを移動されました。

椅子と机が置かれ、少し緊張感があり、燦燦と光が入る部屋。スタッフルームが変わった歯科医院では、スタッフ全員でのミーティングが重ねられ、小さな改善を繰り返しながら成長を続けています。

「チーム一丸になって、対応している今、私たちの歯科医院は発展しか想像できません」

今の院長に迷いはありません。

(月一回掲載)

